

2. 事業概要

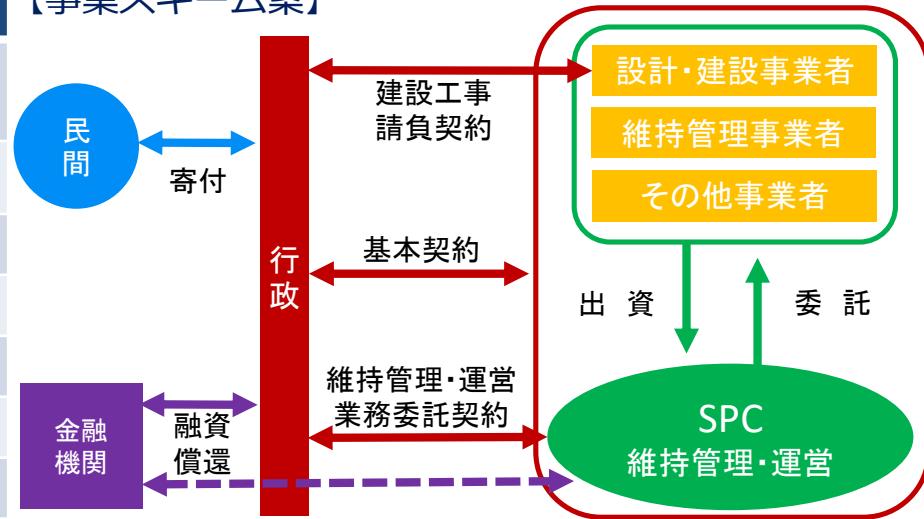
スタジアム・アリーナ
ガイドブック参照箇所

P29～59「スタジアム・アリーナ整備に係る資金
調達手法・民間資金活用プロセスガイド

(4) 想定する事業スキーム及び事業主体

	実施主体
資金調達	建設：行政 運営：民間事業者
事業用地の確保	行政（秋田県or秋田市）
設計・建設	行政／民間事業者
維持管理	民間事業者
運営	民間事業者
所有	行政（秋田県or秋田市）
主たる利用者	ブラウブリッツ秋田

【事業スキーム案】



- ✓ 資金調達・建設主体は行政となる為DBO方式を想定
- ✓ 資金調達は民間参入（寄付・出資）の可能性も探る
- ✓ PFI事業契約に基づき、施設の整備・維持管理運営は民間（SPC等）が実施
- ✓ 施設は公的位置づけが強い為、施設の所有は行政
- ✓ 地元クラブチームが主たる利用者として、運営にも強く関与

(5) 事業スケジュール

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
構想策定・整備地選定	→							
基本構想・基本計画策定			→					
事業計画・事業化検討				→				
事業化（基本設計・実施設計）					→			
事業化（施工～竣工、運営準備）						→		
供用開始								→

3. 事業収支に関する検討

スタジアム・アリーナ
ガイドブック参照箇所

P29～59「スタジアム・アリーナ整備に係る資金
調達手法・民間資金活用プロセスガイド

(1) 収支前提の考え方（事業候補地③秋田市八橋で算出）

プロジェクト全体収支として設定（PFIによる負担区分などは加味せず）

	前提となる項目	金額（千円）	根拠		前提となる項目	金額（千円）	根拠
初期 投資	用地取得	1,100,000		資金 調達	公費	9,249,000	補助金・交付金・その他により削減可能 (地方債：金利2.0%20年※H29年度報告書より)
	本体用地取得費		0行政所有地の為		民間調達	1,000,000	民間寄付10億で設定
	代替地取得費	1,100,000	既存施設と同等の価格を設定		補助金・交付金	未定	
	施設整備費	9,149,000			その他	未定	
	既存物撤去	280,000					
	本体整備費	7,800,000	非全天候型				
	外構	389,000					
	代替施設整備費 (全天候型屋根設置費)	680,000	健康広場・第二球技場移設				
(4,300,000)							
合計	10,249,000		合計	10,249,000			
支出	人件費	16,000		収入	利用料収入①	21,000	J2想定（21試合）
	維持管理・運営費	78,000	維持管理・水光熱費・芝管理費・備品等		利用料収入②	10,000	イベント・市民利用・ラグビー
	借地料		0行政所有地の為 減価償却費は未算入		テナント賃料	15,000	250坪*0.5万/月*12ヶ月
					駐車場収入	15,000	J2開催：21日*500円*194台*100%=2,037,000 その他行事：70日*500円*194台*70%=4,753,000 平日：274日*500円*194台*30%=7,973,400
					命名権・広告料収入	10,000	命名権500万/広告料500万
							行政からの委託費（サービス対価）未算入
	合計	94,000			合計	71,000	

3. 事業収支に関する検討

スタジアム・アリーナ
ガイドブック参照箇所

P29～59「スタジアム・アリーナ整備に係る資金
調達手法・民間資金活用プロセスガイド

(2) 収支結果

【初期投資】

- ✓ 秋田市八橋への整備で算出
- ✓ 行政所有地の為取得費は0円で設定
- ✓ 既存施設の代替地取得費用として11億円、代替え施設整備費として6.8億円で設定
- ✓ 全天候型屋根の設置費用は未算入（概算費用提示）

【資金調達】

- ✓ 民間資金調達にて93億円を20年・金利2.0%で調達
- ✓ 民間からの寄付を10億円で設定（新スタジアム構想策定協議会より）
- ✓ 調査研究にて洗い出した補助金の活用を検討

【収入】

- ✓ 利用料収入にてJ2開催・それ以外の利用料収入算入
- ✓ テナント収入・駐車場収入は当該地域を参照
- ✓ 命名権・広告料収入は既存施設参照値を算入
- ✓ 委託費・サービス対価は未算入

【支出】

- ✓ 新スタジアム構想策定協議会資料を参照
- ✓ 減価償却費は未算入

【収支】

- ✓ 減価償却・サービス対価を除き▲2,300万
- ✓ 初期投資償還年額をサービス対価として設定か？

(3) 収益増加や費用削減に資する具体策

【初期投資減方策】

- ✓ 八橋においては既存施設の対応が必要となる為、代替地においての工夫が必要
- ✓ 全天候型屋根の設置については、収入に寄与する活用方法を更に調査・研究する必要あり

【資金調達先検討】

- ✓ 寄附、設立パートナー募集での資金調達

【収入増方策】

- ✓ テナント賃料については、地元企業等の日常的なビジネスシーンに利用してもらうことで、COI収入を獲得
- ✓ 県民の健康寿命延伸に向けた、ヘルスケア起業家を支援するインキュベーションオフィスの導入
- ✓ 八橋エリアにおいては駐車場収入が見込める為、収益源の一つに設定
- ✓ 命名権・広告料収入においても八橋エリアは有効。
- ✓ eスポーツ大会やドローン大会など、新たな市場を開拓する事で利用料収入に繋げる

【費用減方策】

- ✓ 他のスポーツ施設、公共施設とのバンドリングによる維持管理費用の合理化
- ✓ 民間事業者による施設運営の効率化により運営・維持管理費用の削減

4. 官民連携協議会の開催及び関連調査

(1) 官民連携協議会及び関連調査

協議会名称	地方都市秋田『低コスト・高稼働スタジアム』勉強会（秋田県・秋田市スポーツ振興課）平成31年3月25日
協議会の目標	「新スタジアム構想策定協議会」の報告書をもとに、3候補地の課題解決策を探るとともに ①地方都市でも実現可能な低コストのスタジアム整備案 ②冬季間の利活用を実現する為のスタジアム整備案 ③限られた敷地面積でも実現可能な利用価値の高いスタジアム整備案 ④健康寿命日本一を実現する為の機能 に関して、より専門的な調査を行い秋田県・秋田市に提出する
付随して実施した調査内容	●市場分析 1.民間参入意欲調査（民間寄付についてのみ実施） 2.健康増進機能のニーズと既存施設の調査 3.冬季間のスポーツ以外の活用方とニーズの調査 4.整備費用に活用できる補助金の調査 ●施設整備に関する調査 1.低コスト整備手法についての調査 2.ETFE膜の実態と雪国での実用可能性調査 3.ユニットスタンドシステムの活用事例、実現可能性についての調査 4.冬季間利用の可能性調査 5.インナー・アウターコンコースの活用事例、実現可能性についての調査
地域住民や関係者等に対する説明	秋田県・秋田市スポーツ振興課担当より関係部署に情報共有を依頼

(2) 今後の進め方や課題等

【今後の進め方】

手続きに時間がかかり、事実上1ヶ月半での委託事業となった為、調査・研究・協議に十分な時間がかけられず、整備実現に向けインパクトを与える事が出来なかった。今回調査した内容を無駄にはせず、引き続き情報収集・研究を継続していく。

また、現在秋田県と秋田市2者にて整備地の協議に入っており、2019年度内に整備地と事業主体が定まる方針。その後の基本構想・基本計画時に情報提供が行えるよう準備を進める。また、資金・事業に対しての民間参入の可能性を広げるための準備を進める。

【課題】

整備地選定にあたり挙げられた3候補地以外の案も浮上する事が想定される。その場合、これまで調査・研究・協議してきたものに加え、新たな調査・研究を行い、さらに協議を重ねる必要性があり、先進事例はもとより、整備自体が先送りとなる可能性がある。

5. 官民連携協議会等の関連資料及び事業の効果

(1)官民連携協議会等の参考情報等

※参考情報等については別紙添付